峽口の硝石

我國製品其の大部を占め、輸出品は胡麻油、羊毛、牛毛、小麥、豌豆等を最とし、其内、油の如きは、現に城内七搾房ありて、一房一日能く十二石を搾ると。燃料は薪、石炭(粉炭)馬糞穀稈等にして、其の石炭、薪は西北山より産出し、飲料は井水稍〻可なり。

二十九日永昌城を發す。涼州出發以來、寒氣日に緩み、是日午前十四度、午後二十八度を示すに至れり。宛ら磁石の常に北方を指す如く、予も亦依然西(偏北)方を指し、十里堡(一名牛王廟(ニューワンミヤオ)水産關(シユイサンコワン)を經て東河(トンホ)を渡る。河幅は約一千五百米突、流水數條に岐れて、幅各〻數米突あり紅廟を上緩坡の初端に認む。崇崗塘橋范(ツオンカンタンチヤオフワン)を過るや、其間牧羊牛多く、次で下坡す。王秀堡(ワンシユウプ)(附近多く駱駝及牛を飼ふ)を過ぎ行程八里餘、大泉(ターチヨワン)に投宿す。

三十日午前一時三十分大泉を發す、本日は寒氣昨日に比して朝來四度に降下し、轉た凛烈に堪えざりしも、午後は二十八度に昇りて稍〻凌ぎ易きに至る。發程の第一驛定羌(チンチヤン)廟には、牧馬場あり。且つ其の南山よりは、石炭及松材を産す。峽口(シヤーカオ)は人家七八十を有し、硝石幷に鹽を出す、其の額硝石は毎月二、三百斤、但し硝石平均五斤中、別に三斤の鹽を製出し、其味頗る佳良なり。而して硝石を製するもの數家。又此地の北方一里餘の所に石炭を採掘せるが出額多からずと。次で豐城堡(フオンチヨンプ)、老爺(ラオヤ)